

第 16 回「21 世紀出生児縦断調査（平成 22 年出生児）」方針（案）

1. 調査について

- 平成 22 年出生児調査の目的は、以下のとおりとする。
「平成 22 年に出生した子供の実態及び経年変化の状況を継続的に観察するとともに、21 世紀の初年である平成 13 年に出生した子供を継続的に観察している調査との比較対照等を行うことにより、子供や若者を取り巻く環境が、その後の進路選択等に与える影響を明らかにし、教育及び就業に関する国の諸施策の企画立案、実施等のための基礎資料を得ることを目的とする。」
- 厚生労働省ではこれまで、全国の平成 22 年 5 月 10 日から同月 24 日の間に出生した子を対象に、5 月 25 日（第 6 回までは 12 月 1 日）を期日として調査を実施してきたが、文部科学省が引き継いで実施する際には、調査期日を 2 ヶ月遅らせて 7 月とするなど、平成 13 年出生児調査と調査時期をできるだけ揃えることで結果を比較しやすくすることを検討する。

2. 調査内容について（詳細は資料 4 - 2, 4 - 3 をもとに検討する）

- 平成 13 年出生児調査との比較対照等を行うため、平成 22 年出生児調査の調査項目は、基本的には平成 13 年出生児調査と同一の内容とし、これに後述の回顧法による調査項目を加えることを検討する。
- 調査を継続して実施するためには、負担なく回答できる分量・内容の調査とすることが重要であり、既に調査済みの項目や他の調査で明らかとなっているものなどの重複については精査し、調査対象者の負担を軽減することとしたい。
特に今回は、実施主体が厚生労働省から文部科学省に移り、大量の調査拒否が出る危険性が大きい回であるため、回答負担について配慮する必要性が高い。
- 厚生労働省が実施していた期間には調査できなかった、小学校・中学校時代の教育体験等について、21 世紀出生児縦断調査で調査した、あるいは今後調査する内容との関係を分析することが有用と考えられるものについては、回顧的な質問を行うことを検討する。
回顧法による調査項目については、令和 5 年度「子どもの成長過程を解明するための長期的な縦断調査に関する調査分析報告書」において、25 歳を対象に実施した調査では、特に小学生段階のことについて「わからない・覚えていない」の回答割合が、高い項目では 2 割程度にもなるとの結果が出ている。記憶の新しいうちには一定の回答を得られる可能性もあるとのことであるため、小学校・中学校時代のことを質問する場合は、比較的早い回での質問を検討したいが、回答負担への配慮から、各回に追加できる質問は 1～2 問とし、計画的に配置したい。

3. 調査方法について

調査対象者は就職や進学で親元を離れた場合が多いため、平成13年出生児調査第19回調査以降の実施形態であるオンライン調査・紙調査併用（オンライン先行）を継続する。

オンライン調査では概ね5割以上の回答率を得ている一方、オンライン調査締め切り後の紙調査票の回収率が課題であり、第19回調査以降、調査終了後に未回答者に対して調査票を再送している。平成22年出生児調査においてもこのような課題を踏まえ、調査票の再送等により、できる限り多くの回答を得られるよう努める。

また、平成22年出生児調査においても平成13年出生児調査と同様、今後の脱落防止策として「引っ越し予定」を尋ね、回答があった対象者へのインセンティブを付し新しい住所を教えてくださいこととする（任意協力）。

<参考> 第21回～第24回1月調査の回収率実績（本年3月時点）

第21回1月調査(再掲)

	対象者数	オンライン	紙1	紙2	回収率合計
本人	14,989	51.5%	14.3%	5.4%	71.2%
保護者	14,989	56.1%	14.5%	4.6%	75.2%
本人 or 保護者	14,989	62.3%	-	-	76.5%

第21回7月調査(再掲)

	対象者数	オンライン	紙1	紙2	回収率合計
本人	14,949	47.8%	16.1%	5.9%	69.8%
保護者	14,949	56.9%	13.9%	4.3%	75.1%
本人 or 保護者	14,949	62.4%	-	-	76.3%

第22回1月調査(再掲)

	対象者数	オンライン	紙1	紙2	回収率合計
本人	14,902	54.2%	6.1%	5.0%	65.3%
保護者	14,902	59.9%	7.0%	4.1%	70.9%
本人 or 保護者	14,902	63.9%	-	-	72.3%

第22回7月調査(再掲)

	対象者数	オンライン	紙1	紙2	回収率合計
本人	14,685	53.4%	7.2%	5.6%	66.2%
保護者	14,685	59.5%	8.2%	4.2%	71.8%
本人 or 保護者	14,685	64.0%	-	-	73.2%

第23回1月調査※2024年3月時点

	対象者数	オンライン	紙1	紙2	回収率合計
本人	14,550	51.6%	5.5%	5.0%	62.4%
保護者	14,550	58.1%	6.6%	3.6%	68.3%
本人 or 保護者	14,550	62.2%	-	-	69.8%

第23回7月調査※2024年3月時点

	対象者数	オンライン	紙1	紙2	回収率合計
本人	14,469	52.1%	5.7%	5.0%	62.8%
保護者	14,469	59.9%	6.2%	3.7%	69.8%
本人 or 保護者	14,469	63.8%	-	-	71.2%

第24回1月調査※2024年3月時点

	対象者数	オンライン	紙1	紙2	回収率合計
本人	14,331	50.9%	回収中	回収中	50.9%
保護者	14,331	58.2%	回収中	回収中	58.2%
本人 or 保護者	14,331	62.1%	-	-	62.1%

※23回調査の紙2は集計途上のため、最終的な数字はこれより大きくなる見込み

※本人 or 保護者の値はオンライン回収と回収率合計のみ入力

3. 第16回調査票(案)につき検討したい事項(平成13年出生児調査からの変更等)

<追加を検討する質問項目(保護者票)>

問5: 中学校名に加え、平成13年出生児調査では第24回に質問した小学校名と一緒に聞くかどうかを検討する

<追加を検討する質問項目(保護者票)>

補問6-2: 奨学金を給付奨学金・貸与奨学金に分けて質問するかを検討する。

<追加を検討する質問項目(本人票)>

小中学校時代の教育体験等につき、回顧的な質問を行うかを検討する。

<質問のレイアウトを検討する質問項目(本人票)>

問8: 質問のレイアウトを、同じ問いを平成13年出生児調査で最近質問した第23回の間3のようなレイアウトに変更するかを検討する。

<小問整理を検討する質問項目(本人票)>

問9: 平成13年出生児調査第16回では10問で構成されていた《自尊感情》に関する小問を整理し、第24回の間6のような全6問の構成とするかを検討する。

<その他>

- ・今後の円滑な調査実施のため、平成13年出生児調査では本人に対して「今後の引っ越し予定」を、保護者に対して「本人のここ1年の引っ越し実績」を、任意協力で質問していたところ、今回は保護者に対して「今後の引っ越し予定」「本人のここ1年の引っ越し実績」を任意協力で質問する。
- ・1. に示したように、回顧法による項目や、追加することが望ましい項目がある場合には、全体の質問数が過大とならないよう、追加する設問の量に応じた削減項目の検討を行う。

《参考》

厚生労働省の平成13年出生児調査第15回及び平成22年出生児調査第14回のページ数は、本人票が11ページ、保護者票が4ページ(平成22年出生児調査第15回調査票[本年5月25日実施予定]は、未公開)。